

平成 27 年 度

川崎市工業用水道事業会計決算概況

川崎市上下水道局

1 平成27年度 工業用水道事業会計決算概況

(1) 総括事項

本市の工業用水道は、わが国初の公営工業用水道事業として昭和12年に給水を開始して以来、重化学工業を中心とした本市の産業経済の基幹施設としてその発展に寄与するとともに、活力と魅力あふれる力強い都市づくりを支える産業の振興に向けて、工業用水道の安定供給に取り組んでまいりました。

水需要については、産業構造の変化や省資源対策による回収水の再利用等の影響を受け減少傾向にありましたが、近年はほぼ横ばいで推移しています。

平成27年度は、「川崎市工業用水道事業中期計画」に基づき、将来の工業用水道の安定供給に向けて、再構築事業、東日本大震災を踏まえた基幹施設の耐震化等に取り組んでまいりました。

一方、財政面では、行財政改革等による経費節減を推進したことから、当年度純利益を計上しましたが、再構築事業に関する事業進捗の影響等により、単年度資金不足額が生じたため、累積資金を活用することで対応いたしました。

今後も、工業用水道施設の整備等に伴う建設改良費が必要となりますが、これまでの累積資金の活用等で対応してまいります。

(業務の状況)

平成27年度末における契約会社・工場数は58社80工場、1日当たりの契約水量は51万5,330 m^3 、年間契約水量は1億8,861万780 m^3 、年間使用水量は1億3,925万5,951 m^3 です。

また、水道料金収入は税抜きで70億824万134円です。

(建設及び改良工事)

平成27年度の建設改良費の決算額は、前年度からの繰越事業費を加えて、40億9,775万1,090円となっております。また、4億7,297万5,423円を平成28年度に繰り越しました。

主な建設改良工事として、施設再構築事業費については、再構築計画に基づき、平間配水所配水ポンプ設備等更新工事等を施行しました。平成27年度決算額は30億710万1,262円となっております。

その他の建設改良費については、長沢浄水場第2凝集沈でん池耐震補強工事等の諸施設の改良工事を施行しました。

2 平成27年度 工業用水道事業会計決算総括表

(1) 予算執行状況

ア 収入（税込額）

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的収入	7,853,207,000	7,949,521,973	96,314,973	101.2%
資本的収入	1,412,752,000	1,405,267,426	△ 7,484,574	99.5%
合計	9,265,959,000	9,354,789,399	88,830,399	101.0%

イ 支出（税込額）

(単位 円)

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的支出	7,300,125,000	6,905,212,051	△ 394,912,949	94.6%
資本的支出	5,524,781,661	4,809,779,182	△ 715,002,479	87.1%
合計	12,824,906,661	11,714,991,233	△ 1,109,915,428	91.3%

(2) 収益的収支・資本的収支

ア 収益的収支（税込額）

(単位 円)

区分	収入	支出	収支差引
収益的収支	7,949,521,973	6,905,212,051	1,044,309,922

収益的収支差額（税抜額） = 当年度純利益（△純損失） 742,776,353円

イ 資本的収支（税込額）

(単位 円)

区分	収入	支出	収支差引
資本的収支	1,405,267,426	4,809,779,182	△ 3,404,511,756

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 3,404,511,756円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 225,913,316円、減債積立金 712,028,092円及び過年度分損益勘定留保資金 2,466,570,348円で補てんした。

(3) 資金過不足額

ア 平成27年度単年度資金過不足額

(単位 円)

区分	金額	備考
当年度純利益 （△純損失） (A)	742,776,353	<補てん財源等の内訳> ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 225,913,316 ・当年度分損益勘定留保資金 1,214,317,254 減価償却費 988,517,797 固定資産除却費 303,186,841 その他非現金取引 112,008,820 長期前受金戻入 △189,396,204 ・退職給付引当金 △ 100,102,340
資本的収支差額 (B)	△ 3,404,511,756	
補てん財源等 (C)	1,340,128,230	
単年度資金残額 （△資金不足額） （A）+（B）+（C）	△ 1,321,607,173	

イ 累積資金過不足額

(単位 円)

区 分	平成 26 年度 末 資 金 残 額	平成 27 年 度 単 年 度 資 金 残 額	平成 27 年 度 末 資 金 残 額
資金残額	8,675,240,755	△ 1,321,607,173	7,353,633,582
うち退職 給付引当金	900,022,190	△ 100,102,340	799,919,850

(4) 経営成績 (税抜額)

(単位 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
営 業 費 用	6,277,544,292	営 業 収 益	7,017,581,798
営 業 外 費 用	182,516,888	営 業 外 収 益	297,264,555
特 別 損 失	112,008,820	特 別 利 益	-
総 費 用	6,572,070,000	総 収 益	7,314,846,353
当 年 度 純 利 益	742,776,353	当 年 度 純 損 失	-
前 年 度 繰 越 利 益 剰 余 金	5,271,565,571	前 年 度 繰 越 欠 損 金	-
そ の 他 未 処 分 利 益 剰 余 金 変 動 額	712,028,092		
当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金	6,726,370,016	当 年 度 未 処 理 欠 損 金	-

(5) 財政健全化法における資金不足比率の状況

会 計 名	資 金 不 足 比 率	経 営 健 全 化 基 準
工業用水道事業会計	— (資金不足となっていない)	20%

※資金不足比率は現段階での速報値である。

3 業務の状況

年度 項目	平成27年度	平成26年度	増△減(%)
年度末契約会社・工場数	58社80工場	58社80工場	(0.0 %) 0工場
年間契約水量(m ³)	188,610,780	188,222,850	(0.2 %) 387,930
年度末1日当たり契約水量 (m ³ /日)	515,330	515,330	(0.0 %) 0
年間使用水量(m ³)	139,255,951	138,935,586	(0.2 %) 320,365
年間配水量(m ³)	142,610,500	142,313,200	(0.2 %) 297,300
1日最大配水量 (m ³ /日)	(8/6) 429,400	(8/7) 440,100	(△ 2.4 %) △ 10,700
調定水量(m ³)	192,054,739	191,807,390	(0.1 %) 247,349
年間超過水量(m ³)	3,443,959	3,584,540	(△ 3.9 %) △ 140,581
配水管の延長(m)	45,718	45,718	(0.0 %) 0
水道料金収入(円) (税抜額)	7,008,240,134	7,002,277,786	(0.1 %) 5,962,348

